

テーマ：景気動向指数（2016年11月）の予測**発表日：2016年12月28日（水）****～C I一致指数の上昇傾向が明確化～**第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

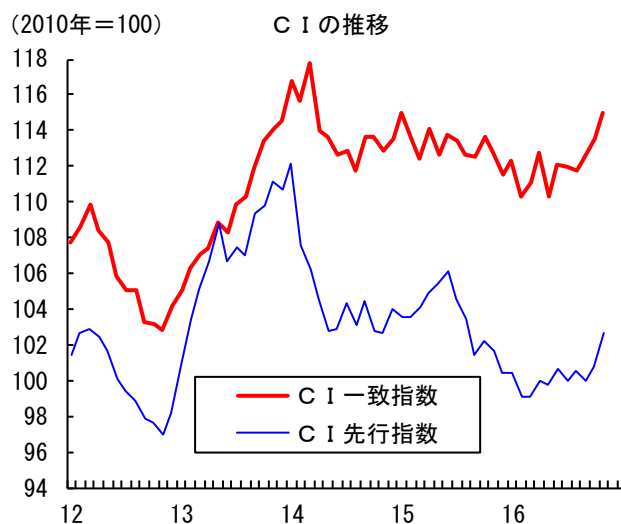
○C I一致指数が明確な改善

内閣府から1月11日に公表される2016年11月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.5ポイントと予想する¹。9月の+0.8ポイント、10月の+1.0ポイントに続いて3ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も大きい。3ヶ月移動平均前月差の値も4ヶ月連続のプラスが見込まれ、10月の+0.50から11月は+1.10にまで高まるとみられる。C I一致指数が上昇傾向を明確化させていることが確認できる結果になるだろう。これは、10-12月期の鉱工業生産が増産ペースを加速させていることとも整合的だ。なお、11月の内訳では、卸売業販売額や鉱工業生産指数、生産財出荷指数などが好調で、C Iの押し上げ要因になっている。

また、11月のC I先行指数は前月差+1.9ポイントを予想する。2ヶ月連続の上昇であり、上昇幅も大きい。先行C Iは昨年夏以降、大幅に低下していたが、16年2月頃下げ止まり、足元では持ち直しに転じている。C I一致指数、先行指数とも持ち直しの動きとなっていることは、景気にとって明るい材料だ。なお、11月の内訳では、在庫調整の進展を反映して生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数が大幅なプラス寄与になったほか、商品市況の上昇を受けて日経商品指数の押し上げも大きくなった。

○基調判断は「改善」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善」が予想される。2015年5月以降、17ヶ月にわたって「足踏み」の判断が続いていたが、10月に「改善」へと上方修正された。11月もこの「改善」判断が維持される見込みだ。なお、「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」である。長らく続いた踊り場から脱却し、景気が回復基調に転じていることが、C I一致指数からも確認されていることになる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2016年11月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 現時点で未公表の中小企業出荷指数は筆者が仮置きした。